

第1回授業研究会の省察

今年度も、第1回授業研究会として前期における授業内容の工夫についてアンケート調査を実施しました。また、今回は中高連携校の市立白鳥中学校の先生にもご協力いただきました。回答いただいた内容の一部を紹介します。

アンケートの観点は次のものから回答しています。

具体的な 取り組み	① ICTを活用し、情報活用能力を育成する	連携中学校の 取り組み
	② 答えのない課題を与え、意見を交流する授業の実施	
	③ 生徒自身が成果を感じられるポートフォリオの作成	
	④ その他	

校内アンケート（郡上北高校）

英語

<ICT, ポートフォリオ, 授業評価等>

- ・観点別評価のためにも、生徒タブレットで生徒同士で会話活動を動画で記録させて提出させている。
 - ・単元の学びの終末の活動として、大きな追究課題を受けた個別の追究課題を設定し、その内容についてまとめ、相互発表交流する（タブレットを用いたプレゼンテーション）。「個別最適な学び」の中の「学習の個性化」を生み出す学習活動の工夫として行った。
 - ・宿題としてプレゼンテーションを録画して提出させた。
 - ・新しい評価方法に向けて、活動を増やした。さらにその活動を毎単元記録した。
- <今後に向けて>
- ・動画ファイルを保管しておく場所に困っている。
 - ・適切な課題設定・追究方法・発表方法などを精査していく。
 - ・意欲的に取り組んでいたように感じた。評価の方法や基準の統一などを改善したい。
 - ・継続的に生徒の活動や評価に繋がる内容を記録していきたい。



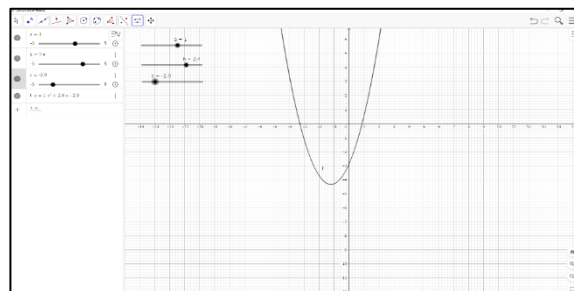
数学

<ICT 等>

- ・教師側の説明を極力減らし、生徒が考え、問題を解く時間をできる限り増やした。1年生の場合はペア交流を積極的に行えるため、自分の考えを他者に伝える機会を設けている。
- ・前期の途中までは、studyaidのプレゼン機能を使っていたが、使い勝手が悪かった（ペンの反応が悪い、画面全体を映すことに手間がかかるなど）ため、途中からはメタモジを使用することにした。操作に手間取ることがなくなり、休んだ生徒も後から板書内容を見ることができるようになったため、良かったと思う。
- ・公式や解き方は生徒の意見から導くように心がけている。今まで以上に考えさせる時間を取るため、考えることが苦手な生徒には、わかりにくく苦しい時間となる。協働して教えあう習慣は中学校のときから身につけている生徒が多い。

・板書を基本的にプロジェクト上で行うようになった。板書中も生徒の様子や反応を確認することができる、生徒の意見を反映させやすいなど効果を実感している。ICTを活用したグループワーク等を実施してみたい。(metamojiの利用・グラフ作成ツールのさらなる活用など)

・グラフ作成ソフト(Geogebra, GRAPES いずれもフリーソフト)を利用しグラフができる様子を見せる、グラフ作成ソフトを生徒に実際に触らせるなどして、関数の特徴を直感的に理解させるよう努めた。



国語

<教科横断的な学び、探究活動等>

読解力と表現力の伸長を目標に、「山月記」の李徴が虎になった理由をグループで考察し、プレゼンする活動を行った。読解力においては、生徒が主体的に考えることと、教員が予想していたよりも幅広い視野で作品をとらえることができたため、効果的な活動になったと考えている。また表現力においては、発表スライドの構成や話し方に課題がみられたため、改善すべき点が明確となり、生徒・教員双方にとって有益であった。内容理解の深化や表現力の伸長を図るための感想文・意見文指導を続ける。そのフィードバックを丁寧に行う。

保健体育

<ICT, ポートフォリオ、授業評価等>

・生徒に考え自分の意見を記録するようにしたことで、全生徒の理解度や考え方を把握することができ、それを今後の指導に繋げれるのではないかと感じる。

・毎時間授業プリントに生徒の意見を記入する欄を作成した。授業で発表できない生徒についても考えを知ることができた。また、交流は授業時間の関係で難しいところはあるが、生徒の意見を全体に紹介し簡易的な意見交流をした。

<今後に向けて>

・週1時間の授業の中での展開のため、生徒理解をすることと授業の進み具合を調整する必要がある。

・本来なら交流する時間や調べ学習の時間を確保したいが時間数の関係で難しい。今後の授業展開をしていく上での検討事項である。

芸術

<ICT, 教科横断的な学び、探究活動等>

説明の合間に学習したことをトレーニングとしてやってみる時間をこまめに挟みました。切り替えがあるため生徒も覚えやすく集中できていました。いつでも生徒について対応できるわけではないので自主的に高める方法は検討事項である。

【摩崖碑(自然の岸壁などに文字を刻したもの)の書を教材とした授業】

①摩崖碑に刻された文字の字形を分析する(グループになり、インターネットや字典で調べる)

②摩崖碑特有の細くゴツゴツした線をどう表現するか、様々な道具を使いながら臨書する

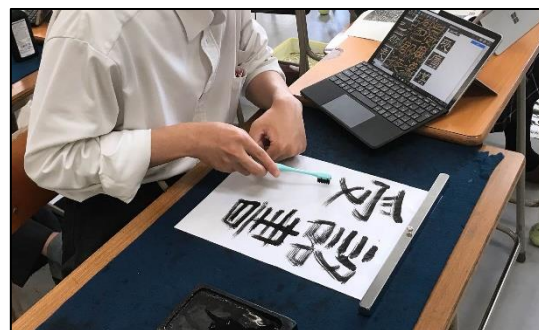
(用意したもの: 綿棒、タワシ、歯ブラシ、チークブラシ、竹で作られた筆、極細筆)

③どの道具が一番摩崖碑を再現できたかグループで考察する→全体交流

○工夫した点

・柔らかい筆や硬い筆などを使い、筆による表現の変化を生徒に体験させることがねらいだったが、筆の本数に限りがあり一人一人に用意するのが困難だったため、身近にあるもの(綿棒や歯ブラシなど)を代用し臨書に取り組ませた。なるべく多くの道具を用意することで、生徒も楽しんで取り組んでいた。

○良かった点



- ・生徒同士で話し合い比較しながら主体的に臨書に取り組む姿が見られた。
- ・様々な道具を使って書くことで、生徒は飽きることなく楽しみながら生き生きと活動に取り組んでいた。
- ・生徒が試行錯誤しながら臨書をする中で、筆以外に紙にも着目するようになり、半紙をあえてクシャクシャにしてシワをつくり、摩崖碑のゴツゴツした質感を表現しようと試みる生徒も出てきて、こちらが想像していた以上に多彩な表現の作品が生まれた。

商業

<教科横断的な学び、探究活動等>

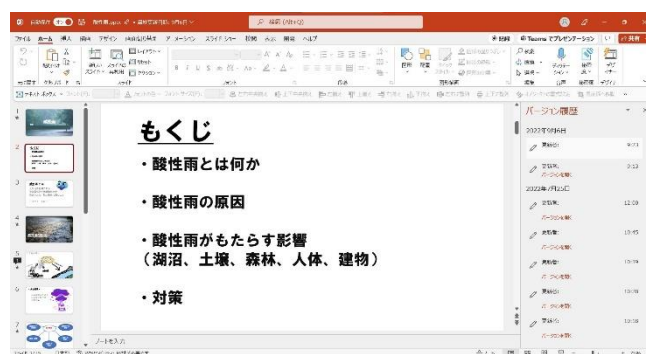
できるだけ生徒がグループ内で意見が言えるようにワークを工夫。授業担当者は、巡回しながら話し合いを活性化。グループワークでの話し合いが上手く進むような教材の開発をしたいが、なかなかうまくいかない。後期ではおとなしい生徒も積極的に関わられる教材開発に取り組みたい。

理科

<ICT, 教科横断的な学び、探究活動等>

・授業プリントとそれに関連付けられたプレゼンで授業を展開した。プリント・プレゼンはある程度精選されたものであるため、その補充を板書して授業プリント余白にメモさせた。この手法は、かつての板書をノートに書き写すという展開より、考える時間的余裕を与え、生徒の理解が深まることにつながったと考える。理科では「実際に体験して、ものを見る」ことに勝るものはないと考える。実験の機会を多く取り入れたい。

- ・カメラを使った実験の記録を行った。
- ・プロジェクタを用いて、生徒に写真や図を提示し、問いかける時間を設けた。生徒が考えようとする姿勢につながったと思う。
- ・Teams の共同編集機能より、生徒のパワーポイント、エクセル、ワードの活用の幅や作業効率が上がった。従来はチーム内で役割分担し、個別に作業していたため互いの作業状況の把握が困難であったが、リアルタイムでの反映がされるため即座にわかるようになった。ファイルも複数作成する必要なく、もし作業中間違って削除してしまっても、過去の履歴から復元ができ安心して使用できる。



校外アンケート （白鳥中学校）※多くの先生からご意見をいただきました。

英語

<ICT,工夫等>

- ・タブレットを使用した、発音、交流、視覚的にわかりやすく、生き生きと活動に取り組めるようになった
- ・英語は書くことに抵抗が強いです。プリントには書けないけど、タブレットを利用すれば書けるという生徒もいます。

<反省点、今後に向けて>

文法の授業や、道徳や学活でどのように ICT 活動できるか悩んでいたりします。

家庭

<ICT,工夫等>

- ・タブレットで配布した資料を参考にしながら、裁縫の授業に取り組んでいる。
- ・意見交換の際に、全員に提出するように伝え、多くの仲間の意見を比較しながら見えるようにしている。

<反省点、今後に向けて>

タブレットを活用すると、交流が活発に行えないことがある。

技術

<ICT, 工夫等>

2年生の生物育成の技術でミニトマトを育てている。その栽培観察記録をタブレットを使ってまとめている。写真に残すことができるため、スケッチに比べて短時間でまとめることができる。また、ロイロノートを使うことで、プレゼンテーションとしてまとめることができ、観察記録の発表にも使うことができる。

3年生では、専用サイトを利用して、双方向性のあるコンテンツの制作に取り組んでいる。

観察記録については、今後も同様に取り組む。また、今後は計測・制御をタブレットとマイクロビットを使って行う予定。

国語

<ICT, 教科横断的な学び, 探究活動等>

- ・考えをタブレットで提示しながら交流することで、発表者の主張の共有やその後の意見の深まりに繋がった。また、加筆・修正がしやすく仲間の主張を取り入れながら学習を進めることができた。
- ・タブレットを活用し、一人一人の思考を可視化すること
- ・ロイロノートで学習計画表を提示すること
- ・単元の見通しを持つための「学びの地図」をロイロノートで作成、生徒と共有。
- ・振り返りの記述内容を統一、継続することでより自分を客観的に評価する力をつける。

<これからに向けて>

- ・グループ交流や全体交流の仕方を工夫し、一人一人の発言量・活動量の増加やグループで最適解を導き出す探究活動を仕組んでいきたい。
- ・発言の機会を設けたり、交流する形態を工夫したりすること。
- ・ともすれば、生徒はタブレットで完結しがち。国語科ゆえ、ノートへの記入、書くことを重視したいが、その両立を模索中。

社会

<ICT, 工夫等>

- ・アンケート機能を用いて理解できたところや出来なかったところを個別に把握する。休み時間やまとめの時間に個別にフォローすることで、生徒の分からないことを分かるへ変容させることができる。
- ・生徒一人一人が学びを言語化できるようにまとめの時間に対話活動を入れている。
- ・単元のまとめの時間に次の学びにどう繋げるかを意識させる時間を設けている。

数学

<ポートフォリオ、授業評価等>

- ・振り返りをロイロノートで提出し、添削する。
 - ・練習問題の答えをロイロノートで送り、生徒自信が自分で答え合わせをする。
 - ・関数において表・グラフ・式をツールを利用してまとめている。
 - ・図形において定義や定理、条件などを図形マップにまとめている。
 - ・動点やグラフなどロイロノートを使い提示した。
 - ・生徒のノートを写真に取り、全体交流時にTVに映し、発表をしている。
 - ・板書をすべてデータで保存している。構造的な板書になっているか。授業で何を学んだかがわかるものかを振り返っている。
- また、共有することで互いの授業を指摘し合っている

<今後に向けて>

- ・中学校は移動式のTVのため、毎回セッティングすることが大変。
- ・TVを使うと、生徒の意見が消えてしまい、板書に残すことができない。
- ・ICTを使ってみるが、効果的ではないことが多い。
- ・生徒の意識の変容を把握するための工夫をもっとしていきたい。
- ・タブレットを使って、振り返りや意識の変容を把握できるような工夫をしていきたい。

通級指導

- ・教科の補充学習と自立活動の両立
- ・担任との連携、家庭との連携、他機関との連携

保健体育

<ポートフォリオ、授業評価等>

学びの地図と称して、生徒も見通し(単元・3年間)が持てるよう、オリエンテーションで説明をしている。

『学びに向かう力』の評価の明確化をしたい。

理科

<ICT、ポートフォリオ、授業評価等>

理科の授業の終わりに、学習内容と実生活をつなげる時間を確保することで、理科の有用性を学ばせた。また、実生活につながるように授業を仕組むことができた。

考察の場面で思考の視点を8つ設けて、より多くの視点で考察できるようにした。

- ①比較する
- ②関係付ける
- ③条件制御に関わって
- ④多面的、多角的に捉える
- ⑤疑問をもつ
- ⑥分析、解釈
- ⑦探究の過程を振り返る

管理職

<取り組んでいること>

学びに向かう力 人間性の評価の観点の具体的姿と評価方法について、よりよいものを模索しています。

<今後に向けて>

学ぶ必然を産む単元指導計画、自己の変容が自覚できる単位時間の指導

<高校へどのようにつなげようとしているのか、高校へ伝えたいことなど>

- ・技術科であるため、教科の学習内容をつなげるのは難しい部分があるが、実践的・体験的な活動を通して最適解を導き出す経験を積ませていきたい。
- ・学びを言語化する活動や、自分で課題を見出す力をつけ、社会へ送り出したいと考えている。
- ・ICTが使えるだけでなく、効果的な利用方法を生徒が理解できるようにして高校へつなげたい。
- ・高校での学びとのつながりや数学の広がり伝えていく。
- ・個別の支援計画などの引継ぎ
- ・単元や学習のつながり(中高間)を理解させることで、学びの連続性をもたせた生徒の育成をしたい。
- ・学びが十分でなかった生徒にも高校で力つけていただけたことありがたいと思います。
- ・理科の見方考え方を身につけることで、社会に出た時に思考の流れを大事にしてほしいと思っている。

今回のアンケートより、高校ではICTの活用に加え、探究活動や観点別評価をどうしていくかに力を入れている教員が多い事がわかりました。中学校ではICTを活用することで一貫した指導がさらにできるよう工夫されていることがわかりました。校内外の実践例を参考にしながら交流や後期の授業につなげていただければ幸いです。第2回授業研究会を12月12日(月)に予定しております。1～6限を授業研究会として、提案型の授業を実施し、学校全体で向上に努めたいと思います。